

はまぼうふう vol.10 2003.8.25.

石狩浜海浜植物保護センター通信











ハマナスの実が色づき、ススキの穂が風になびく季節になりました。今年の夏は、気温があまり上がらず、盛夏を感じることもなく秋の到来です。昨年も寒い夏だっただけ、暑い夏が恋しく感じます。

7月末、はまなすの丘中間部湿地で、花をつけたモウセンゴケを見つけました。数メートル四方の中に、ミズゴケなどと混ざっていくつかの株が群生していました。湿地の遷移が進み、この石狩川河口から消えてしまうのでは?と思われるモウセンゴケ。まだしばらくは健在のようです。湿地を代表的する花、タチギボウシも見事に花開いていました。



タチギボウシの花(7月末)

晩夏～秋の花

<u>ヒロハクサフジ</u>	<u>ナミキソウ</u>	<u>クサレダマ</u>	<u>エゾミソハギ</u>	<u>ガボ / シロワレモコ</u>
 <p>青～赤紫</p> <p>7月中旬から咲き始め、秋おそくまで花は見られます。秋には小さなマメを見ることもできます。海岸草原・はまなすの丘湿地部で見られます。</p>	 <p>青紫</p> <p>7月中旬から咲き始め、9月半ばまで見られます。海岸草原に点在します。</p>	 <p>黄</p> <p>8月いっぱい湿地で見られます。葉っぱが3～4枚輪生。腐玉(カレダマ)ではなく、草連玉(カレダマ)。</p>	 <p>桃～赤紫</p> <p>8月いっぱい湿地で見られます。穂状の花がヨシの間に見え隠れしています。</p>	 <p>白</p> <p>9月中旬まで湿地で見られます。ひときわ背が高く伸びるので、すぐに目に付きます。</p>
<u>ウンラン</u>	<u>サワギキョウ</u>	<u>オグルマ</u>	<u>コガネギク</u>	<u>ユウゼンギク</u>
 <p>黄</p> <p>8月上旬から咲き始め、秋遅くまで見られます。砂地に咲き、海水浴場駐車場の砂丘際でも群落が見られます。</p>	 <p>青紫</p> <p>8月下旬から9月上旬にかけて、湿地の一部でひっそりと咲いています。</p>	 <p>黄</p> <p>8月下旬から9月下旬まで、湿地で見られます。一足先に咲いていた地ツツに似ますが、葉の質感や総苞片で見分けます。</p>	 <p>黄</p> <p>8月中旬から秋遅くまで見られます。秋の海岸草原を、ヒロハクサフジとともに飾ります。</p>	 <p>薄紫</p> <p>8月下旬から秋遅くまで見られます。帰化植物ですが、湿地の秋を代表する花です。</p>

行方 mhana

石狩生きもの日記

石狩浜をフィールドに調査研究されている方々から、浜に生きる生きものたちのさまざまな情報を提供いただいています。今回は、前回に引き続き3回目。市内花川在住の北海道昆虫同好会会員、小林英男さんから、石狩浜の昆虫について、興味深いお話をご紹介します。

石狩浜昆虫ものがたり

石狩浜では今までに3種類のカミキリ科甲虫^{こうちゆう}が得られています。カミキリムシ科の甲虫は、本来森林性、訪花性^{ほうかせい}の昆虫ですから、このような海岸^{きび}の厳しい環境の中ではあまり多くの種類は得られません。しかし、一部のものについては、海岸^{りゅうぼく}の流木下で得られることが古くから知られています。ここでは、ウスバカミキリ(下図)が得られることが特筆です。

このカミキリムシは、こげ茶色の地味な大型の種ですが、以前から海岸の流木地帯で得られることが知られており、ここ石狩浜では確実に得られるようです。この種は夜行性^{やこうせい}のため、普段はほとんど見かけることはありませんが、8~9月ころ、やや太めの流木を静かに起こしてみてください。流木の下に静止していて動きはあまり活発ではありませんので、かんたんにつかまえることができます。数もそんなに少なくありません。



ウスバカミキリ

もう一つ特筆すべきは、昨年発見した「カラフトヨツスジハナカミキリ」(左図)という種類です。このカミキリムシは、エゾニュウなどのセリ科植物および、ヤマナラシの材に好んで集まるハナカミキリの仲間です。しかも、今までの採集例はほとんどが内陸地方で、特に石狩^{いしかり}低地帯から道東・道北地方が生息域となっており、石狩支庁管内では過去3例しか(すべて内陸)発見例がないのです。今回得られた個体は、石狩浜の波打ち際^{なみうちぎは}を飛翔^{ひしやう}中のメスの個体でした。石狩支庁管内では、4例目となる採集記録で本当に驚^{おどろ}きました。



カラフトヨツスジハナカミキリ

石狩浜では、その他マグソクワガタ(クワガタという名まえがついていますが、クワガタムシの仲間ではなく、コブスジコガネ科の甲虫です)という珍しい甲虫もとれています。その他、海浜地帯に特徴的な種として、ハマベオオハネカクシ(右図)、ウミベアカパネハネカクシ、ハマヒョウタンゴミムシダマシ・オオハサミムシ・アリモドキ科甲虫の仲間も得られております。それから、水生昆虫^{すいせい}であるオオコオイムシまでもが流木下で得られているのです。



ハマベオオハネカクシ

このように、石狩浜は何がとれるかわからない面白さをもっており、興味の尽きないところですが、今後とも、この美しい自然の残る石狩浜を我々人間の責務^{せきむ}として守っていかなければならないと思います。

最後に、石狩浜の昆虫についてさらに詳しく内容をお知りになりたい方は、海浜植物保護センターにある「石狩湾の海浜地帯で得られた小甲虫類について」(jezoensis別刷^{べつすり})を参照してください。おわり

(石狩市花川在住 日本鞘翅学会^{しやうし}会員 小林英男)

活動の中から

開花フェノロジー調査

(フェノロジー:植物の季節ごとの移り変わり)

今年の5月から、毎週1回、水曜日に、石狩浜の海岸草原で開花植物調査を行っています。海から内陸へ向けて、10箇所程度の区画と調査木を設定し、その中の開花植物の量と訪花昆虫を調べています。毎週一回、決まった場所を観察することで、植物たちの興味深い生き方が見えてきました。今回は、ハマボウフウの花の紹介です。

～ハマボウフウの花の秘密～

ハマボウフウの花は、直径4 mm ほどの小さな花（小花）が複数集まって傘状にまとまった形（複散形花序）で、この傘状のまとまりが、大きな株では2～5個ほどつきます（左図）。

この複数ある傘状の花のまとまり（花序と呼ぶ）のうち、最初に花開くのは、中央の花序です。

開いたばかりの花には、4 mm ほどの小花ひとつひとつに、花あたり5本の雄しべが見えます。さて一週間後、中央の花序は、半数以上の小花の形が変わっています。小花は花弁を落としそのまん中に、二本のひげのような3 mm ほどの雌しべがヒュッと伸び、各小花が融合するような形になります。さらに一週間後には、すべての小花が雌しべを伸ばし、早いものでは、めしべのつけねが赤くなって結実し始める小花も見られます。

この中央の花序は、一週間の間に、オスからメスへと機能（はたらき）の変化させているようです。



オス段階の花序

実際、秋にハマボウフウを見てみると、複数の花序を咲かせていたにも関わらず、結実している花序は一つだけのものがほとんどでしょう。

オスとメスの時期を分けたり、オスの機能しかもたない花をつけたりすることには、どのような意味があるのでしょうか？ 他家受粉を増やしたり（中央の花序）結実はできなくても最低限、花粉は飛ばす（わきから伸びる花序）といった、厳しい環境の中で少しでも多くの強い子孫を残して行くための作戦であることには違いないでしょう。

調査は9月まで続きます。石狩浜の花の季節が詳細に記録されるとともに、訪花昆虫相が明らかにされてきています。さらに、海岸砂丘の花が昆虫の生活にどのように影響を及ぼしているかなどについても、知見が得られそうです。

この調査には、ボランティアさんの力が大きく貢献しています。お手伝いくださっている方々に深くお礼申し上げます。



中央の花序がメス段階から結実段階にはいる頃、わきから伸びる花序も花開きます。しかし、わきから伸びる花序は、オス段階（オシベが伸びる状態）は経るものの、メス段階（メシベの伸びる状態）には、ならないようです。つまり、わきから伸びる花序は、子孫を残すために花粉を飛ばすというオスの役割しか果たしていないようです。



メス段階の花序（中央）とオス段階のみの花（両側と奥）

春から夏の活動報告

自然観察会

日時：5月24日（土）10時～12時30分

場所：はまなすの丘 参加者25名

今年は春がゆっくり訪れたため、イソスミレの花がまだ満開でした。ハマハタザオも見ごろ。ハマエンドウの花はようやく咲き始め。野鳥では、草原を代表するノゴマ、ノビタキ、ヒバリの他、オジロワシやチゴハヤブサも観察されました。

初夏の石狩浜ハイキング

日時：6月14日（土）9時～15時30分

場所：石狩砂丘～石狩浜海浜植物保護センター

参加者：子ども22名 おとな17名

石狩湾新港東埠頭から保護センターまで、クイズラリーをしながら歩く予定でしたが、雨に当たり、途中から保護センターへ直行。センターとその周りで、ネイチャーゲームやクラフトを楽しみました。大人のグループは、全7km歩いて制覇しました。

2003.8.25



海辺の音を聞いて音の地図をつくろう(6/14 こども自然教室で)

夏の自然観察会&ハマボウフウ交流会 in 石狩

日時：7月13日(日)9時~12時・13時30~16時30分

場所：はまなすの丘・弁天会館

参加者：観察会33名 ハマボウフウ交流会 in 石狩:50名

宮城県で活動する名取・七ヶ浜ハマボウフウの会を迎えて、石狩浜の花盛りのハマボウフウ群生地やハマナス等の海浜植物が豊かに自生する様子を観察。

午後から、名取・七ヶ浜・石狩での活動報告を行いました。名取では、地域一体となった海浜植物の育成・移植により浜辺に花園を蘇らせる計画や、ハマボウフウの地場産品化を目指した栽培技術の開発について、報告がありました。七ヶ浜でも、地元農家が先頭にたって、ハマボウフウの農業栽培を進めていることについて、報告がありました。

名取ハマボウフウの会の活動報告の様子



石狩からは、センターの活動を支える3名の方が代表して、活動の経緯や調査活動の成果などについてお話ししました。

企画展「浜辺の昆虫たちの世界」

期間：8月2日(土)~8月10日(日)

場所：海浜植物保護センター 期間中來館者：707名

石狩浜とその周辺で見られる昆虫たち360種2,239点を標本展示。石狩海岸林で見られるゼフィルス(シジミヤク仲間)をはじめ、海岸の流木の中に生息するクワガタなどが紹介されました。

企画展特別企画「浜辺の昆虫採集・標本づくり実習会」

日時：8月2日(土)・8月9日(土)

場所：海岸草原・海浜植物保護センター 参加者:各日15名

両日とも天気に恵まれず、9日は外での採集も中止でした。しかし、センター内での標本づくり実習では、アマチュア昆虫研究家の小林さんの指導のもと、甲虫標本をつくったり、チョウやトンボの標本の作り方を教わったりと、みんな興味津々に取り組んでいました。



甲虫の標本づくりの様子

9~10月活動予定

秋の自然観察会

日時：9月20日(土)10時~12時30分

場所：はまなすの丘(集合：ガイスターセンター)

内容：ハマナスの実も色づき、ススキの穂がゆれる秋のはまなすの丘を散策します。カガシクやヒメハギの花も彩ります。

参加費：無料 定員：なし 申込締切：9/18

持ち物：筆記用具・双眼鏡・動きやすい服装

こども自然教室

日時:10月4日(土)9時~12時30分

集合:9時石狩市役所または9時30分海浜植物保護センター

内容：実りの季節を迎えた石狩浜で、自然の中からの贈り物を集め、クラフト(工作)して遊びます。

対象：小学生(低学年は保護者同伴)参加費：無料

定員：30名(抽選) 申込締切：9月19日(金)

持ち物：筆記用具・バングナ・雨具・防寒着

行事への参加申込・お問合せ・通信に関するご意見等は、下記まで。

石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3292 石狩市弁天町48番1 tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146

開館期間：4月29日~11月3日 休館日：火曜日(祝日の場合はその翌日) 開館時間：9時~17時

email : ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP : http://www4.ocn.ne.jp/~ishi-ham/